

2021年2月22日

報道関係各位

三菱地所株式会社
三菱地所プロパティマネジメント株式会社

まち全体が、あなたのオフィスに。 ワークスペースのマッチング支援サービス「NINJA SPACE」始動

三菱地所株式会社（以下、三菱地所）と三菱地所プロパティマネジメント株式会社（以下、三菱地所プロパティマネジメント）は、本日2月22日より、ワークスペースのマッチング支援サービス「NINJA SPACE」を開始いたします。本サービスは、働く場所を探すビジネスパーソンに対し、飲食店や会議室、ホテルなどの空いているスペースとのマッチングをはかり、ニーズに応じて柔軟に場所を選択し働ける環境づくりを支援するものです。本日からのプレローンチ期間では、大手町、丸の内、有楽町エリア（以下、丸の内エリア）を中心としたスペース提供施設と、ご利用いただける参加者を募集します。早期に1,000席のラインアップを目指し、丸の内エリアのみならず他エリアでの本格展開を図ります。

コロナ禍でテレワークやウェブ会議の機会が増えるなか、働く場所を業務内容や状況に応じて柔軟に使い分ける動きが加速しています。本サービスでは、ユーザーが希望するスペースのタイプや利用人数、利用時間とマッチする空間をアプリ内で検索・選ぶことができ、施設までの誘導、利用料の決済がアプリ上で完結します。ビジネスパーソンに対する利便性の高いワークスペースの提供と、飲食店・会議室・ホテル等の空きスペースの収益化をサポートし、まち全体が柔軟な働き方を促進させるワークスペースのプラットフォームとして機能します。

場所や時間を柔軟に選択するワークスタイルが進み、まちにもコロナ禍における迅速な対応が求められています。三菱地所は、今後も既存ビジネスとのシナジーが期待される新事業をはじめ、まちづくりに関わるあらゆるサービスの提供を目指していきます。

【「NINJA SPACE」サービス概要】



- ※1 予約が入る前に施設側での座席取り置きは不要です。スペースに空きがある時のみご利用いただけます。
 ※2 今後利用可能なワークスペースとして、飲食店舗・コワーキングスペース・ホテル・貸会議室・フォンブース・車内などを想定しています。
 ※3 ユーザーのスペース利用料金は0円から。プレローンチ期間は、施設のシステム利用料も無料となります。

＜サービス内容に関するお問い合わせ先＞
 三菱地所(株) 新事業創造部 TEL：03-3287-3571

＜導入を希望される店舗・施設様からのお問い合わせ先＞
 三菱地所プロパティマネジメント(株) サービスソリューション推進部 TEL：03-3287-4399

■「NINJA SPACE」の特徴

仕事場所を探しているユーザーにスペースを紹介し、施設等のスペース提供者とマッチングするモバイルアプリサービス。本サービスにより、名前の由来でもある「忍者のごとくワークスペースに素早く忍ぶ」ためのプラットフォームを構築。

- ・ユーザーはスペースのタイプ（個室 or オープン席）、利用人数、利用時間から検索し、ニーズに合ったスペースの選択が可能。
- ・ユーザーは候補から希望スペースを選び（複数選択可）、マッチング後は、スペースの確保・サービス利用料の決済・施設までの誘導がアプリ上で完結。ログイン済みであれば最短3ステップでワークスペースを見つけることが可能。スペース提供者は、リアルタイムの空き状況から受け入れ判断が可能で、場所利用料やワンオーダーの要否、最低利用金額の設定もスペース提供側で設定。
- ・ユーザーのスペース利用料金は0円から（利用料金は施設側で設定、別途飲食代が必要な場合があります）。プレローンチ期間中、スペース提供者側のシステム利用料も無料。

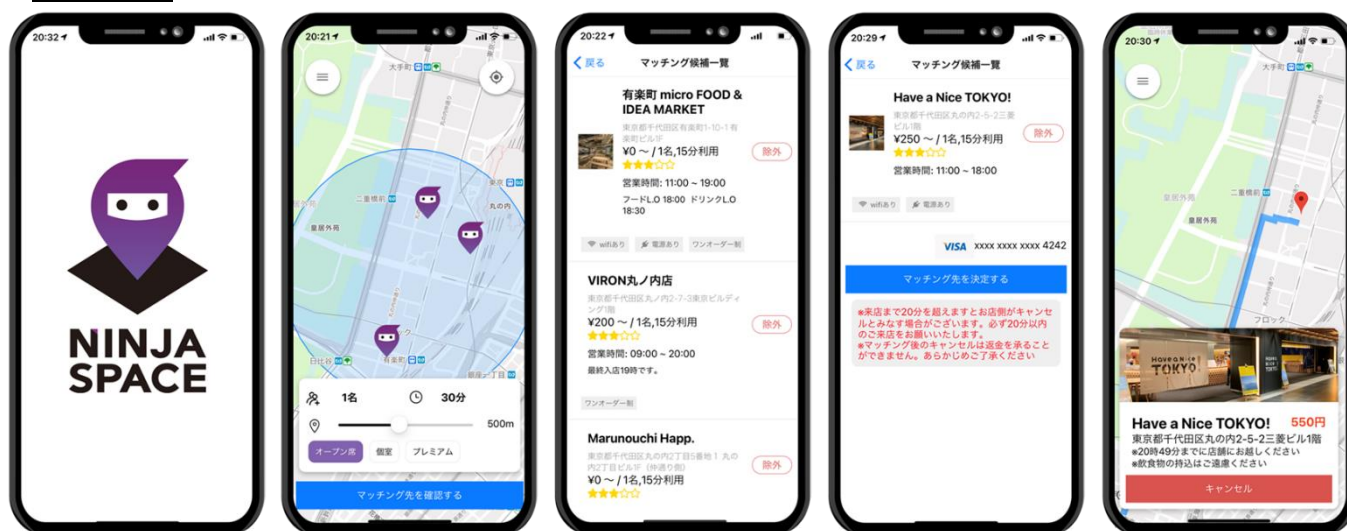


NINJA SPACE

▲NINJA SPACE ロゴ

※現在商標出願中

■利用方法



▲起動時

▲絞り込み・検索

▲マッチング・決済

▲経路表示

対応 OS : iOS のみ対応 <https://www.ninjaspace.jp/>

■プレローンチ期間について

プレローンチ : 2021 年 2 月 22 日 (月) ~

※活動状況に応じて以降の計画を策定いたします。

※2月22日は「忍者の日」（一般社団法人 日本記念日協会認定）

<参加施設例(参画施設募集中)>

- ・VIRON（ブルーランジェリー・パティスリー・ブラスリー） 東京ビル TOKIA 1 階
- ・GOODOFFICE 有楽町（コワーキングスペース）東京交通会館 6 階
- ・Marunouchi Happ. Stand&Gallery（カフェ・POPUP スペース）丸の内二丁目ビル 1 階
- ・有楽町 micro FOOD&IDEA MARKET（カフェバル&生鮮・雑貨）有楽町ビル 1 階
- ・KAITEKI CAFE（カフェ・レストラン）大手町ビル 1 階



▲VIRON



▲GOODOFFICE 有楽町



▲Marunouchi Happ.
Stand&Gallery



▲有楽町 micro
FOOD&IDEA MARKET



▲KAITEKI CAFE

車も NINJA SPACE でワークスペースに？

3月8日以降、期間限定でキャンピングカー等を丸の内仲通りに設置し、車をワークスペースとして活用する実験を予定しています。

(協力：Carstay 社)

今後も NINJA SPACE を通じ、空間の活用可能性について探るべく、様々な取り組みを実施予定です。

※最新の状況についてはこちらをご確認ください。 <https://www.ninjaspace.jp/>

※東京都感染拡大防止ガイドラインに沿って安心・安全な感染拡大防止策を徹底し、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じ実施いたします。



以 上

○丸の内エリアのまちづくりコンセプト：「丸の内 Re デザイン」



丸の内
Re デザイン

三菱地所は、2020年以降の丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）におけるまちづくりを「丸の内 NEXT ステージ※」と位置付け、“人・企業が集まり交わることで新たな「価値」を生み出す舞台”を創造していきます。「丸の内 Re デザイン」はその実現に向け、まちづくりのあり方から変えていくコンセプトワードです。

※始動リリース： https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_marunouchinext.pdf

**(ご参考)三菱地所が進めるポスト・コロナのまちづくり
多様なライフスタイルに応え、人・企業が交わることで新たな価値を生み出す**

三菱地所は、コロナがもたらした本質的な変化を見極め、ポスト・コロナ時代のライフスタイル・ワークスタイルに向けた以下の取り組みをスタートしています。これらを基本に、丸の内エリアをはじめとする都心、地方双方のまちづくりを進め、東京・日本をリードするまちづくり・ワークスタイルを提案いたします。

●ポスト・コロナ時代のライフスタイル・ワークスタイルに向けた取り組みの基本的な考え方

- ▶ 多様なライフスタイル・ワークスタイルに応えながら、人・モノ・情報・時間を共有する求心力を創造する
- ▶ まちやオフィスは、「集まり交わることでしか得られない、新たな価値を生み出す」役割を追求する
- ▶ デジタル基盤の整備を加速し、フェイストゥフェイスとデジタルが高度に融合する世界をつくる

1. まちづくりにおける5つの取組み

丸の内は、『就業者 28 万人が毎日 8 時間×週 5 日過ごす場』から、
『多様な就業者 100 万人が最適な時間に集まり、交流して価値を生み出す舞台』に

●5つの取組み

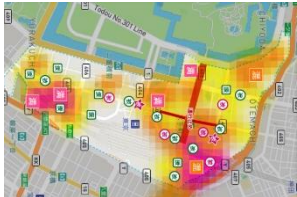
- ①フレキシブルなワークスタイルに対応する商品・サービスの拡充
- ②個人や企業の交流が生むイノベーション・価値創造の追求
- ③働くだけでなく、プライベートな時間も充実。まちに多様な目的を用意
- ④建物の低層部や公共空間のワークプレイスとしての積極活用
- ⑤安心・安全と Well Being(健康・快適・便利)を両立するサービス・技術の推進



DX・スマートシティ

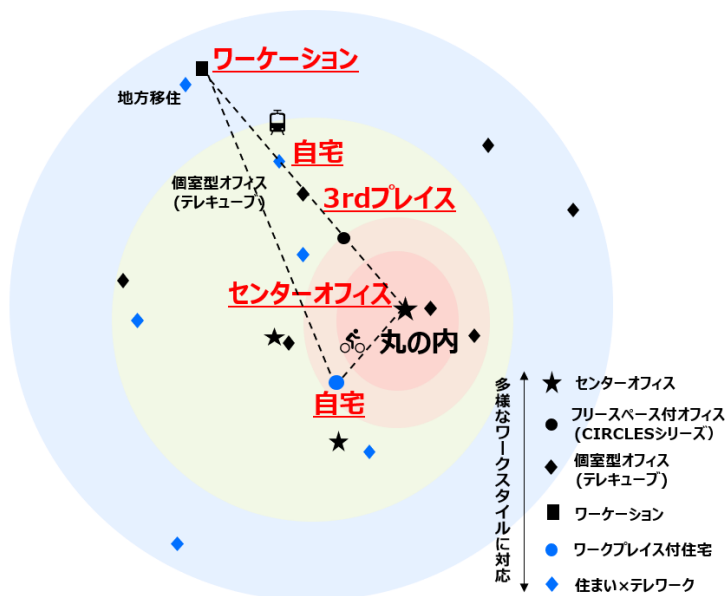
エリアマネジメント

テレキューブ(①) テレワークのための 個室型スマートワークブース	FINOLAB 拡大・進化(②) イノベーション拠点の一つ。 Fintech 企業が集結	Shin Tokyo 4TH(①、②) DX やオープンイノベーションを 手掛ける企業が集結
		
丸の内テラス(③) ルーフトップテラス、エンタテインメント等を提供	よしもと有楽町シアター(③) 変化する有楽町に新たなエンタテインメント拠点	丸の内ストリートパーク(④) 丸の内仲通りが ワークプレイスや飲食空間に
		

TOKYO TORCH(④) 約 2haに及ぶ 屋外空間を整備	人流データのライブ配信(⑤) 人の流れを解析し、安心を支える 疎密状況を提供
	

2. 多様なワークスタイル・ライフスタイルへの対応

オフィスの多様化に加え、住宅のワークプレイス化等、三菱地所グループを挙げてトータルな価値提供を進めます。



ポスト・コロナ時代を迎えた現在、働き方や働く場所を業務内容や状況に応じて使い分ける動きが加速しています。今後、オフィスでリアルに対面して進めた方がいいのか、テレワーク(オンライン)がいいのか、また、働く場所はセンターオフィス(1stプレイス)・自宅(2ndプレイス)・3rdプレイスがいいのかなど、業務やそれぞれの事情に応じて、より柔軟に、意識的に、選択されることになるでしょう。

そのため、オフィスにはフェイストゥフェイスでしか得られない、創造性や偶発性といったリアルならではの価値が見い出されることになり、各企業は、こうした変化に対応できるオフィスを戦略的に整備していく動きが広がりそうです。

●ワークेशन事業

地方と都市の新たな関係を生み出す新しい働き方を提案



●コンパクトオフィス『Circles』

自由な働き方の時代のオフィスのあり方



●The Parkhabio SOHO 大手町

コワーキングを併設した住まい



●『箱の間』

住まいながら働ける空間を実現



以上